

2019(令和元)年度

弘前学院大学「卒業時アンケート調査」

実施結果報告書

まえがき

大学における教育の質について、その充実・向上、点検・検証、それらを踏まえた改善というサイクルが求められ、全国の大学で広く実施されてきている。

本学でも全学教学マネジメント体制を整備しつつ、教育の質保証に係る評価の一環として、このたび、学士課程教育の検証を目的として、学生の成長実感、満足度に焦点を当て、初年次教育、教養教育、専門教育の成果・効果を測るために、あわせてその支援体制としての学修環境・学生生活に関する意見を求めた。

本学の教育の有効性を検証し、あわせて外部への説明責任を果たすべく、この結果を公表するものである。

目 次

- I 卒業時アンケート調査実施要項(1)
- II 実施結果(2)
- III 資料：卒業時アンケート調査票(18)

I 卒業時アンケート調査実施要項

はじめに

「大学 FD 委員会」の規程第 5 条に基づき、本学の教育の質保証に係る評価の一環として、卒業生に対する卒業時アンケート調査を実施する。

1. 目的

弘前学院大学の教育の質保証について、本学の学士課程教育の有効性の検証を行うべく、本学の学部教育における学修成果に関して、卒業時の学生がどのような意識を持っているかを調査・分析し、その結果を踏まえて、教育課程・教育方法・教育内容等の充実、改善に資することを目的とする。

2. 内容

(1) 学士課程教育について、および学修環境、学生支援、その他について。

基礎教育、教養教育についての意識、評価

専門教育についての意識、評価および進路との関連性

(2) 学修環境、学生支援

(3) 弘前学院大学に対する要望、評価

3. 設問

資料：「卒業時アンケート調査票」参照

4. 調査主体

大学 FD 委員会。

5. 調査時期

2020 年 3 月、卒業時。

回収率および調査の精度を上げるため、学位記授与式の前日の予行日に実施する。

(実施日：2020（令和 2）年 3 月 13 日（金）)

6. 調査方法

各学部を通じてアンケート用紙を配布し、回収する。

7. 調査対象者（卒業予定者数、回収数、回収率）

2019 年度卒業（予定）学生を対象とする。

8. 実施体制

大学 FD 委員会および各学部 FD 委員会。

II 実施結果

1. 回収率

実施した結果、卒業予定者数 168 人、回収数 137、回収率 81.5%となり、前年度同様に高い回収率となった。

卒業学部・学科ごとの内訳

卒業学部・学科	卒業予定者数	回収数	回収率 (%)
文学部	74	65	87.8
英語・英米文学科	25	21	84
日本語・日本文学科	49	44	89.8
社会福祉学部・社会福祉学科	37	31	83.8
看護学部・看護学科	57	41	71.9
全体	168	137	81.5

(社会福祉学部と看護学部は、1学部・1学科である。)

2. 回答内容、データ

以下、設問ごとにその回答内容等をみていく。

(なお以下において、学部・学科を次のように略称する場合がある。)

文学部：英語・英米文学科→英文。文学部：日本語・日本文学科→日文。

社会福祉学部→社福。看護学部→看。)

問02 進路(進学、就職)について以下のとおりである。

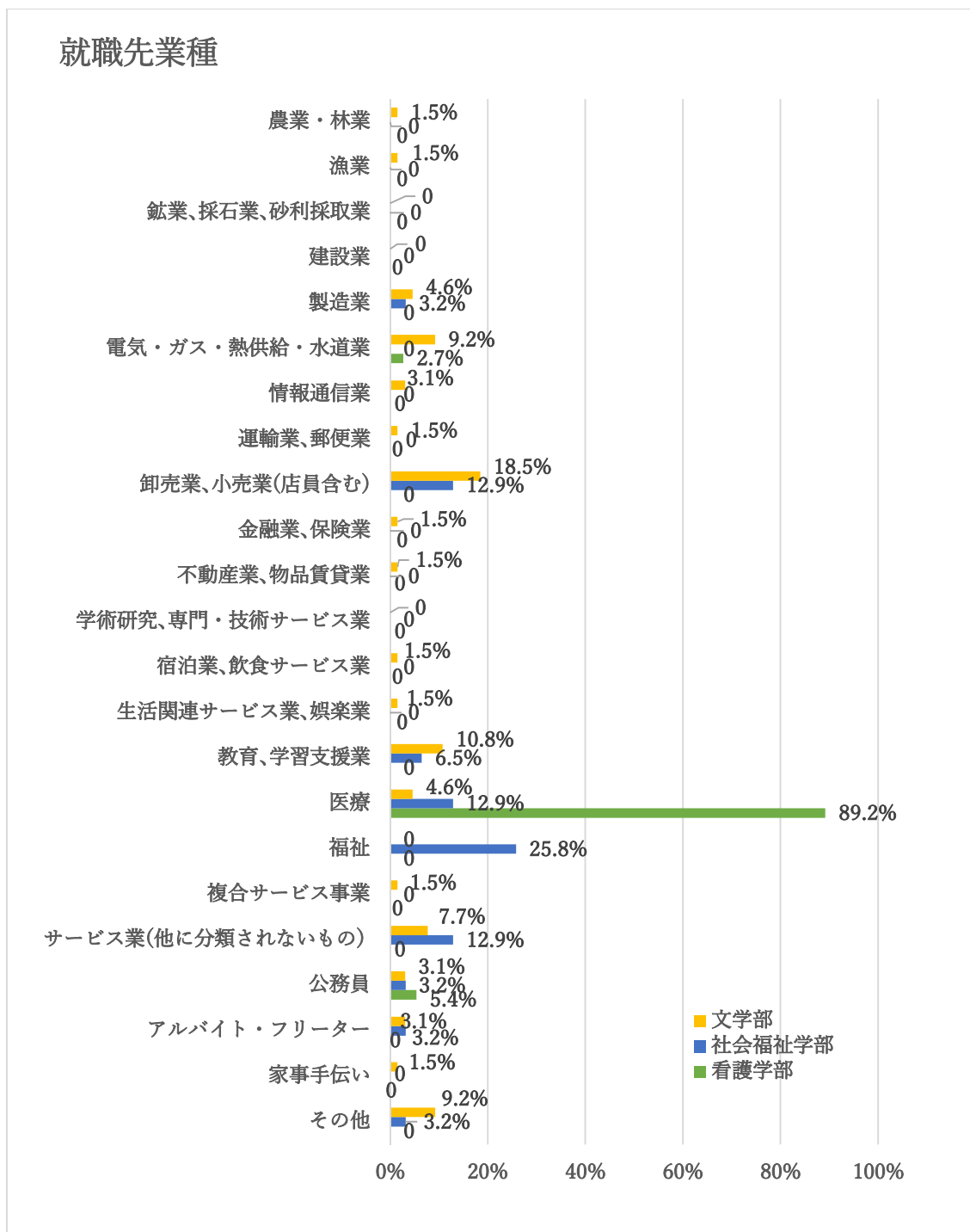
進学について。

卒業学部・学科 \ 進学先	本学大学院	他大学大学院	他大学、 専門学校等
文学部	1	1	0
英語・英米文学科	0	1	0
日本語・日本文学科	1	0	0
社会福祉学部・社会福祉学科	0	0	0
看護学部・看護学科	0	0	1
全体	1人	1人	1人

就職等について。

学部の特徴が現れているので、業種ごとに3学部を配列した。

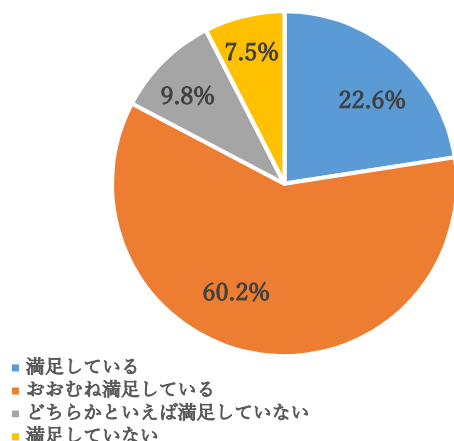
文学部は業種が多岐に亘るが、社会福祉学部では福祉関係が約26%で昨年度(50%)の半減となった。看護学部では医療関係が約90%(昨年度100%)であった。



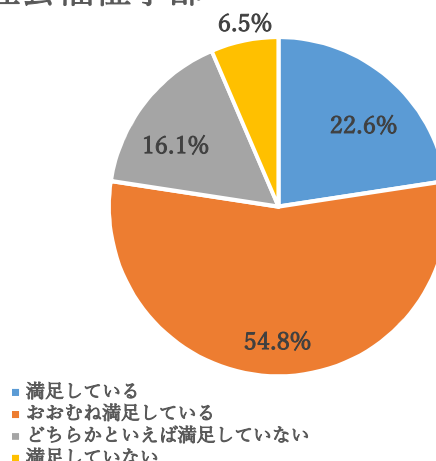
問 03 学業・学生生活の満足度をたずねた設問である。

全学的には、「満足」及び「おおむね満足」合わせて約 83%の満足度であるが、昨年度の約 63%と比較して 20 ポイント増の大幅アップとなったのは大変喜ばしい。学部別に昨年度比をみると、文学部（英文・日文）25 ポイント増、社会福祉学部 10 ポイント増、看護学部 26 ポイント増である。

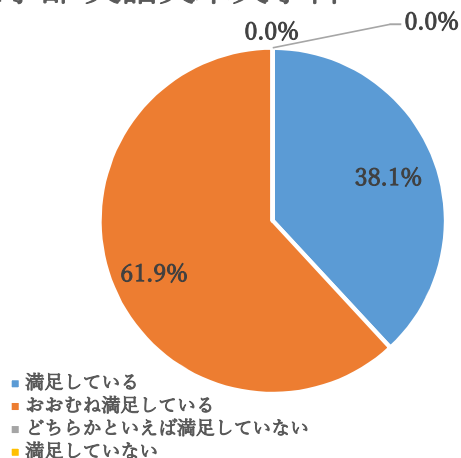
満足度 大学全体



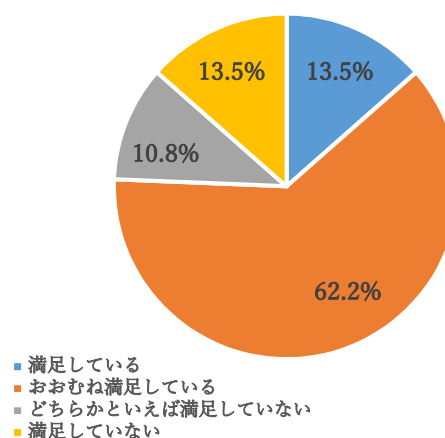
社会福祉学部



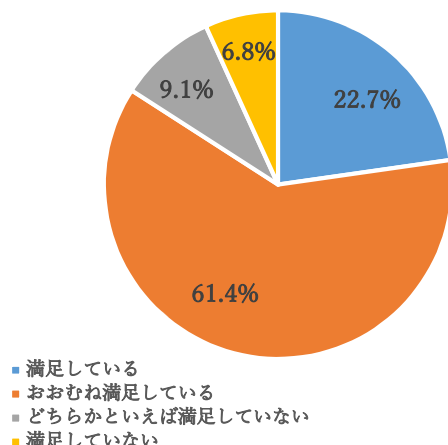
文学部 英語英米文学科



看護学部



文学部 日本語日本文学科



問04 前問3の満足度に続けて、さらに具体的に大学での勉学や学生生活にとって良かったと思う項目をたずねた設問である。

学部・学科ごとに異なる分布を示しているが、割合の高い3位までの項目を挙げてみると次のようである。

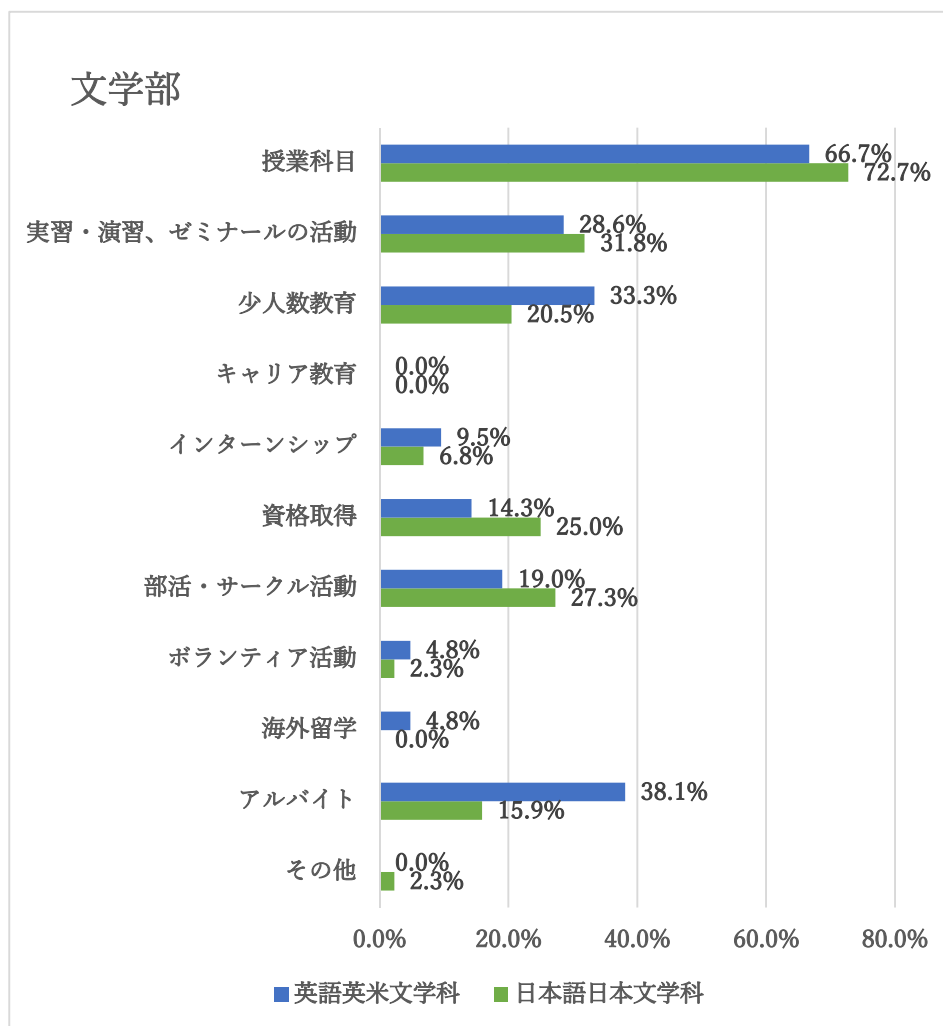
文学部・英文では、1位…授業、2位…アルバイト、3位…少人数教育。日文では、1位…授業、2位…実習・演習・ゼミナール、3位…部活・サークル活動。

社会福祉学部では、1位…授業、2位…実習・演習・ゼミナール活動、3位…資格取得、ボランティア活動。

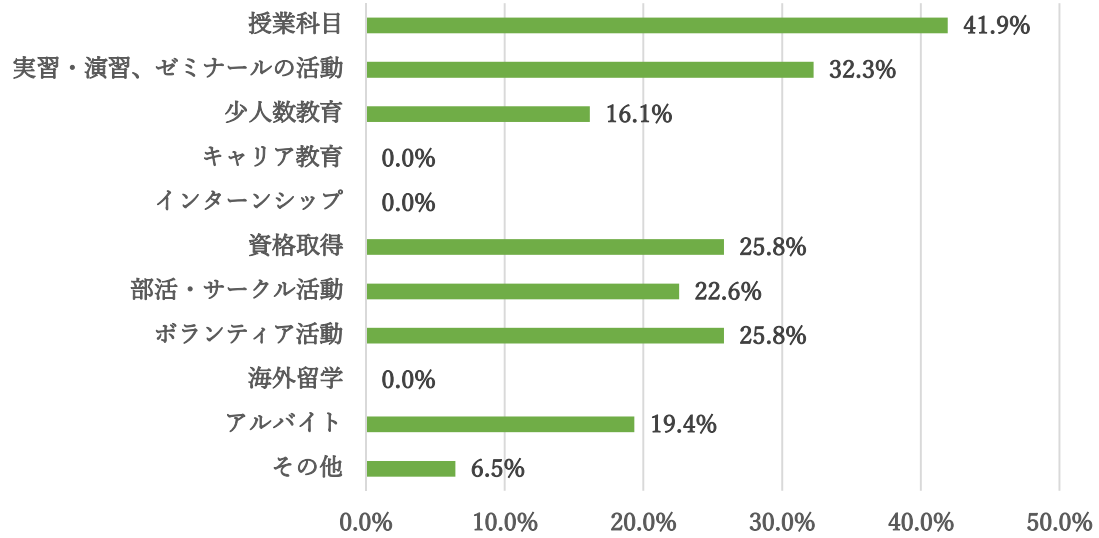
看護学部では、1位…実習・演習・ゼミナール活動、2位…アルバイト、3位…少人数教育。

昨年度と比較して、各学部とも授業関係が高い数値を示し、文学部、社会福祉学部では「授業」が1位となり、看護学部でも「実習・演習・ゼミナール活動」が1位となった。これは昨年度と比較して著しい違いであり、喜ばしい結果である。

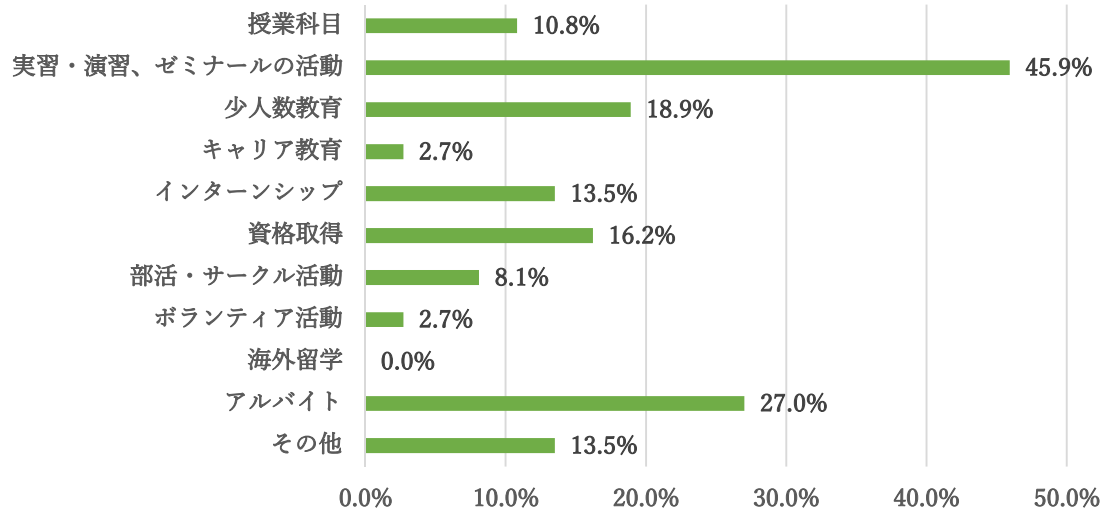
なお、最後の選択肢の「その他」には、「友人」（文学部・日文（1件）、社会福祉学部（1件）看護学部（4件））が記入されていた。



社会福祉学部

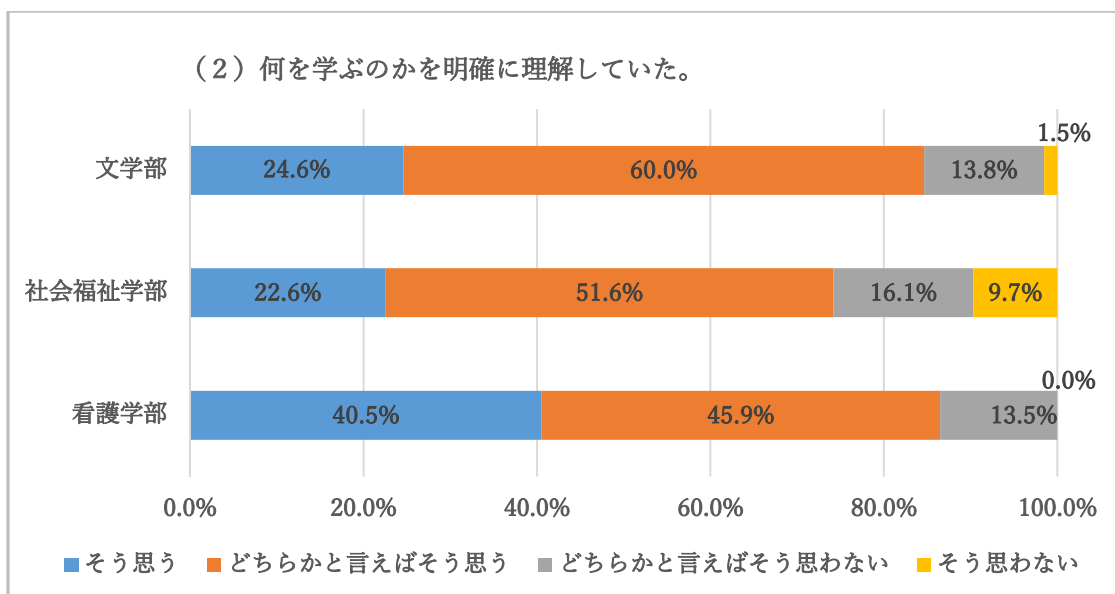
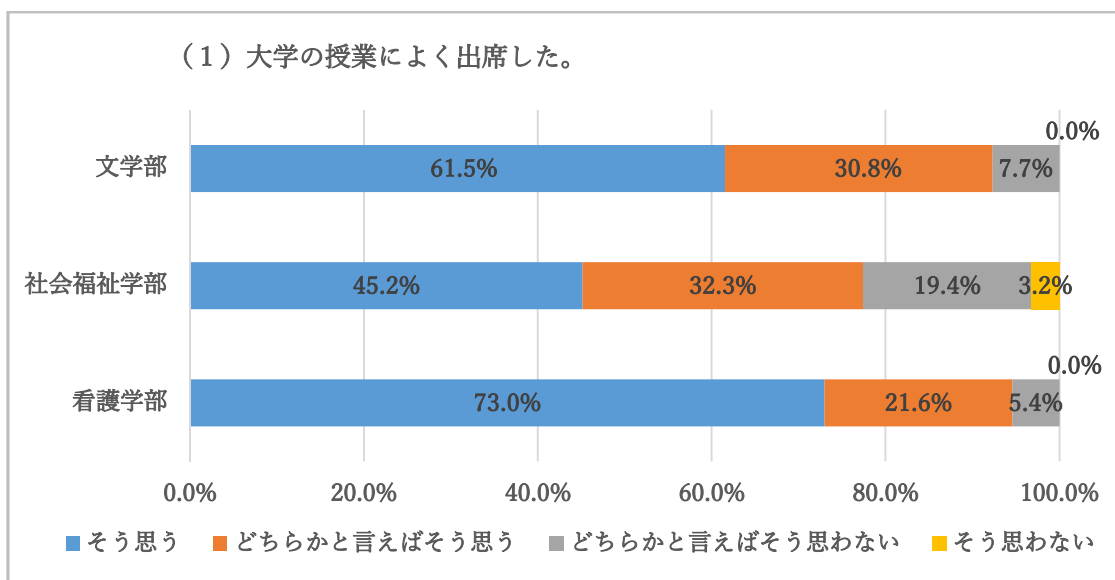


看護学部

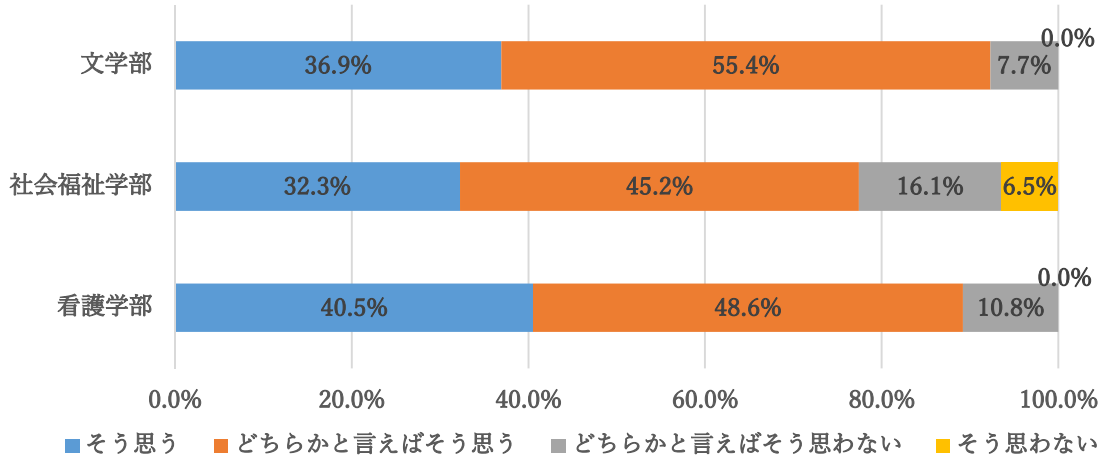


問 05 大学での学修についての自己評価である。

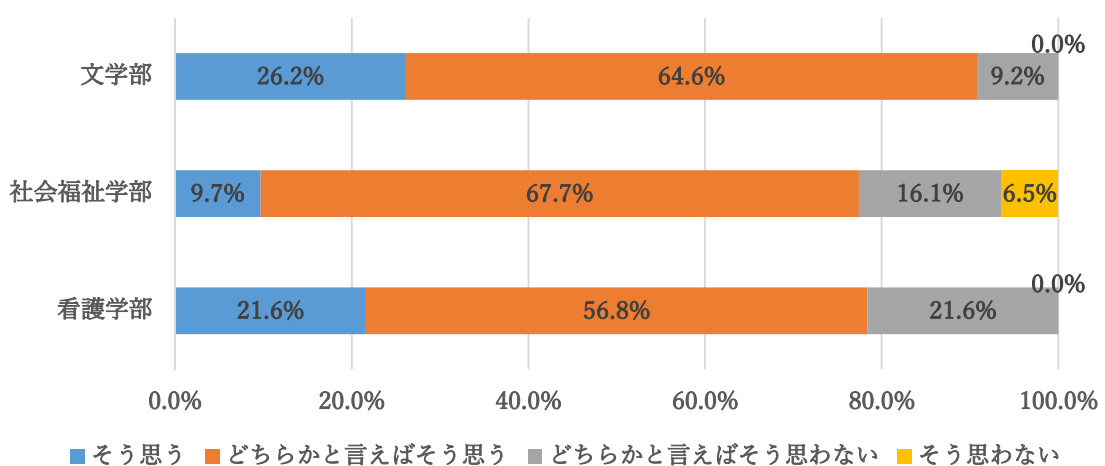
ここでは以下の5つの側面からたずねた。すなわち（1）授業出席率、（2）学ぶ目的の理解度、（3）課題、試験等への取り組み度、（4）授業内容の理解度、（5）授業への意欲である。その結果、いずれにおいても、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という回答が、昨年と同様、全体の8割から9割の高率であるのは喜ばしい結果である。



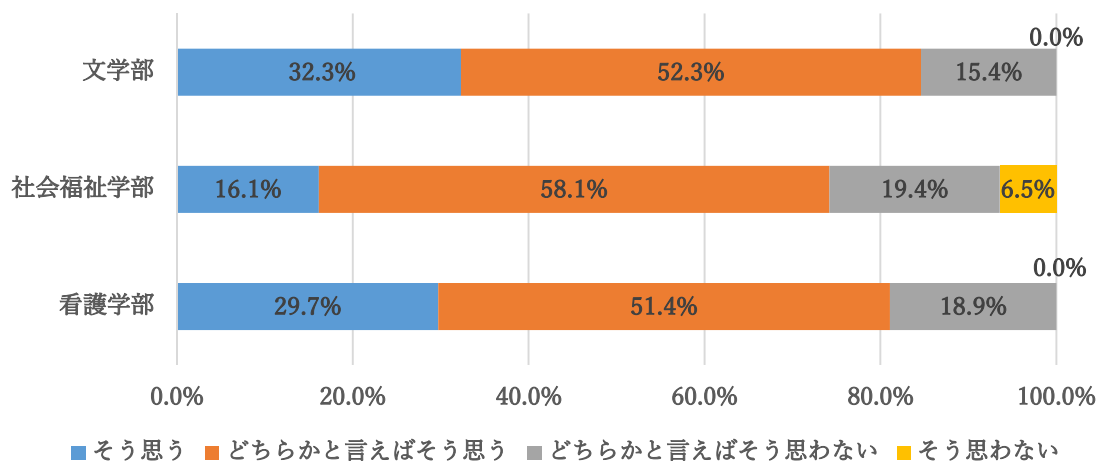
(3) 課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。



(4) 授業の内容を十分に理解することができた。



(5) 授業に対し、意欲的・積極的に取り組んだ。



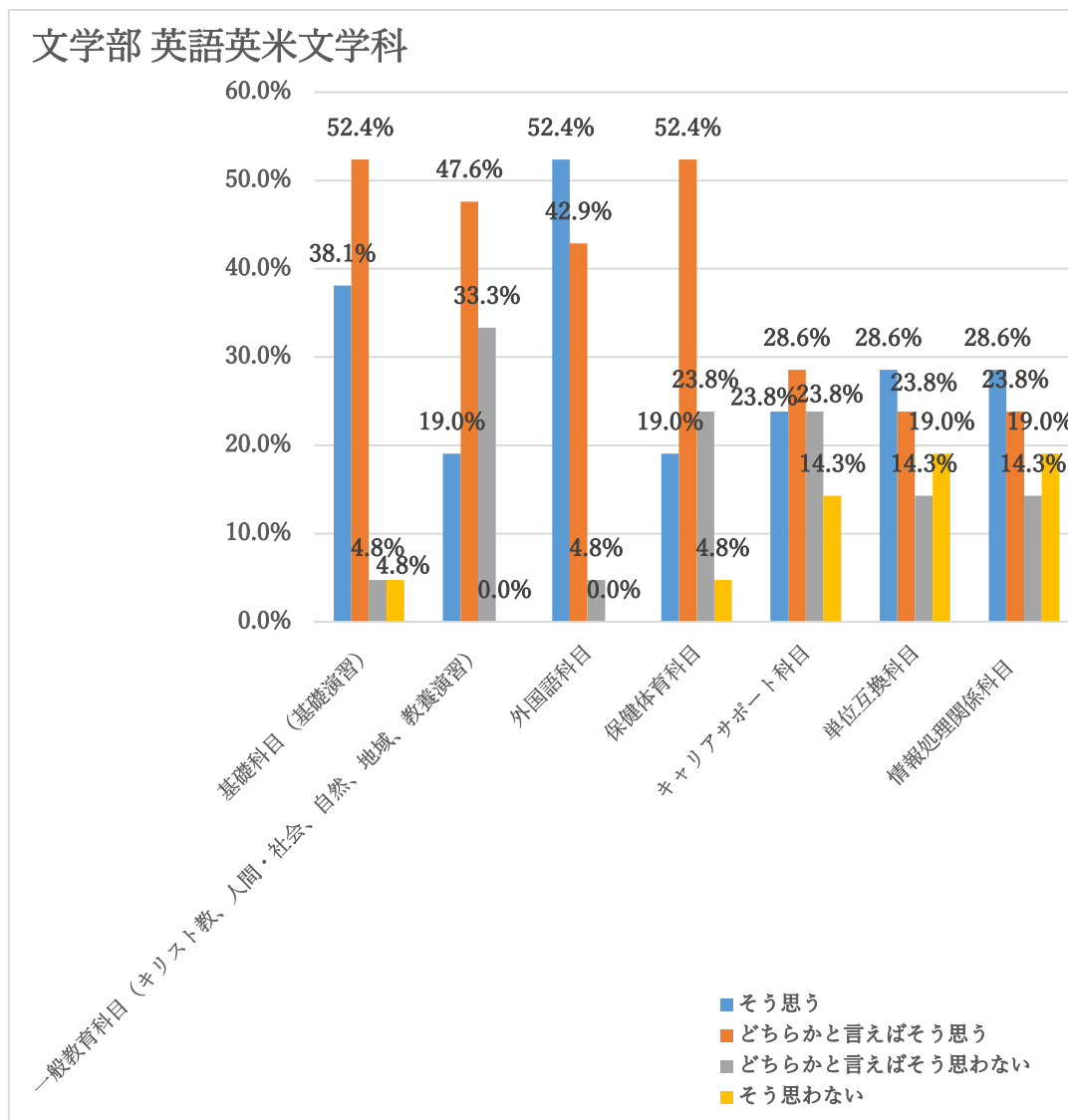
問06 1・2年次における基礎科目、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、キャリアサポート科目、単位互換科目、情報処理科目の中で、有益だったと思う分野や科目をたずねた設問である。

この設問6は、学部・学科ごとの固有の選択肢となっているので、学部・学科ごとに示すこととする。

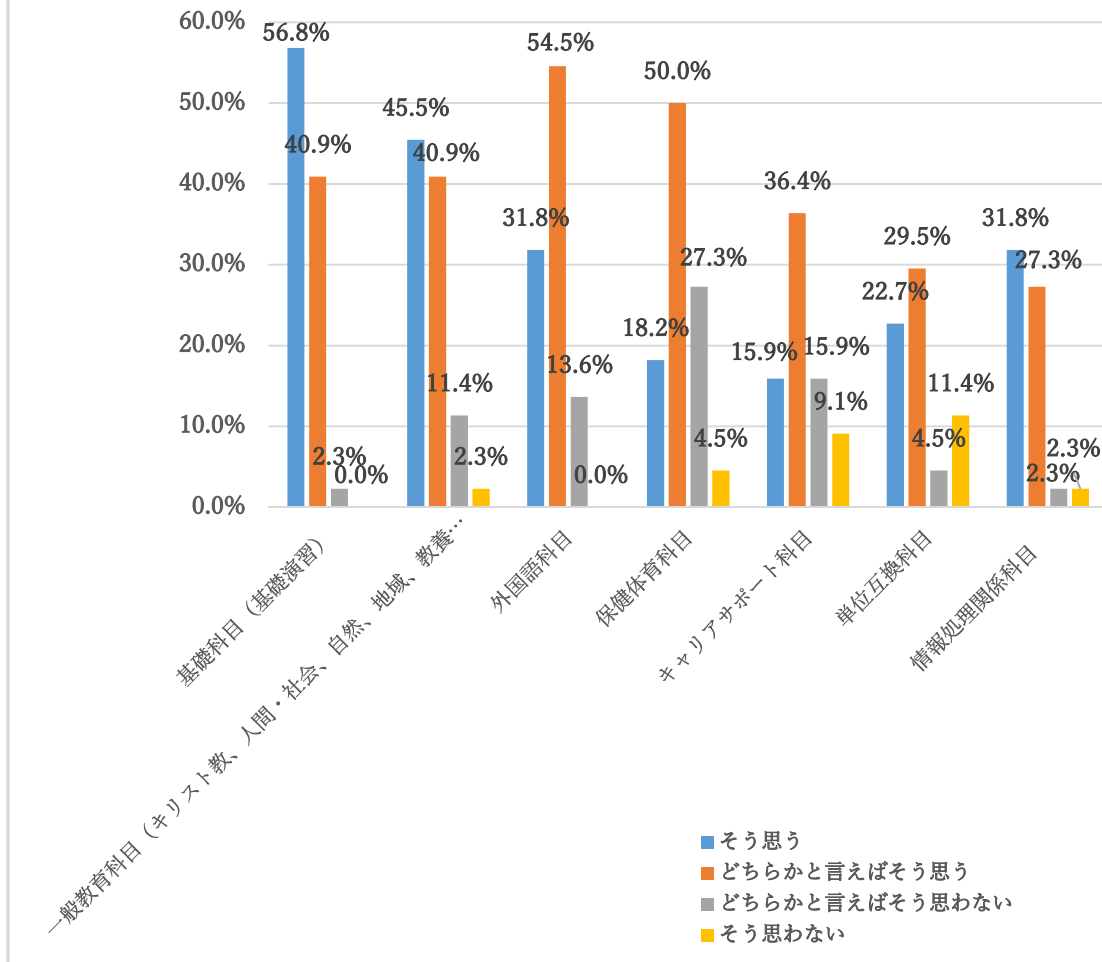
「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」とを合わせた回答で見ると、文学部（英文・日文）では、基礎科目、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目がほぼ7割以上有益だったと評価されている一方で、キャリアサポート科目・単位互換科目、情報処理関係科目はほぼ5割となっている。

社会福祉学部では、基礎教育科目系の2種のみを取り上げて尋ねているが、この2種の基礎教育科目系のいずれについても、昨年度と同様に高評価であった。

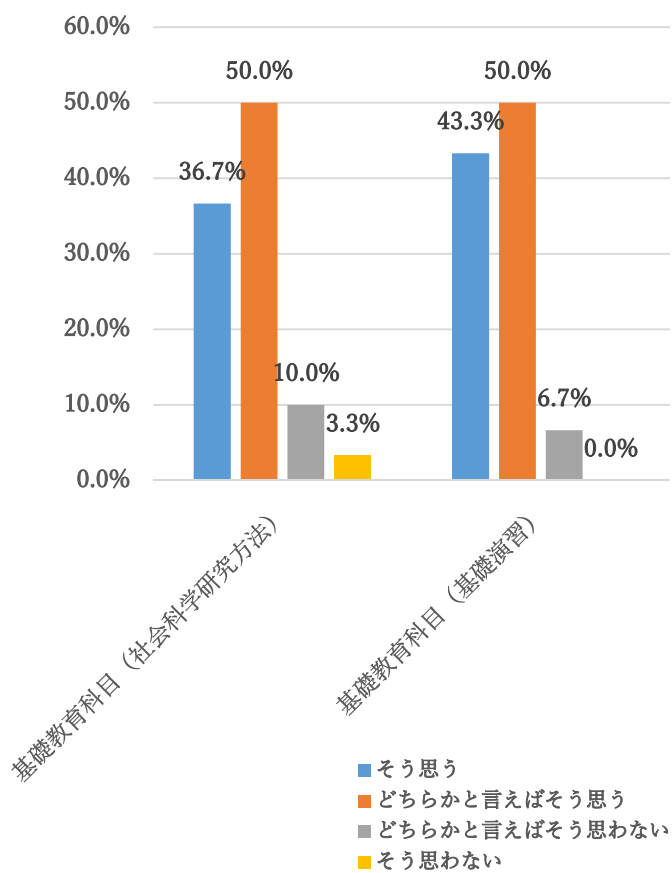
看護学部では、4種のみを取り上げて尋ねているが、基礎演習が7割超の有益系回答である。ただし、これ以外の3種は4割を切っている。



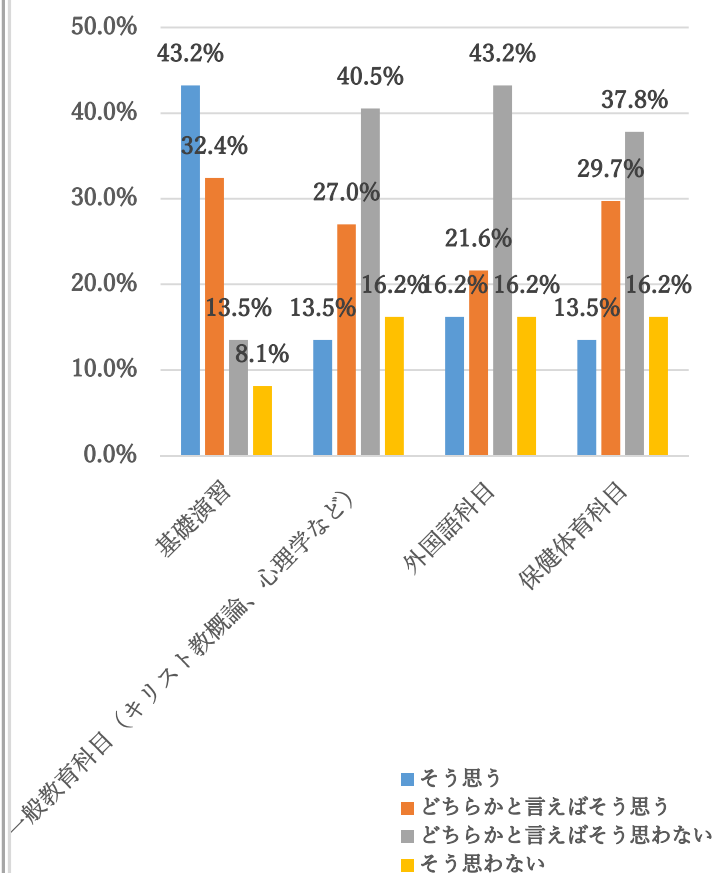
文学部 日本語日本文学科



社会福祉学部



看護学部



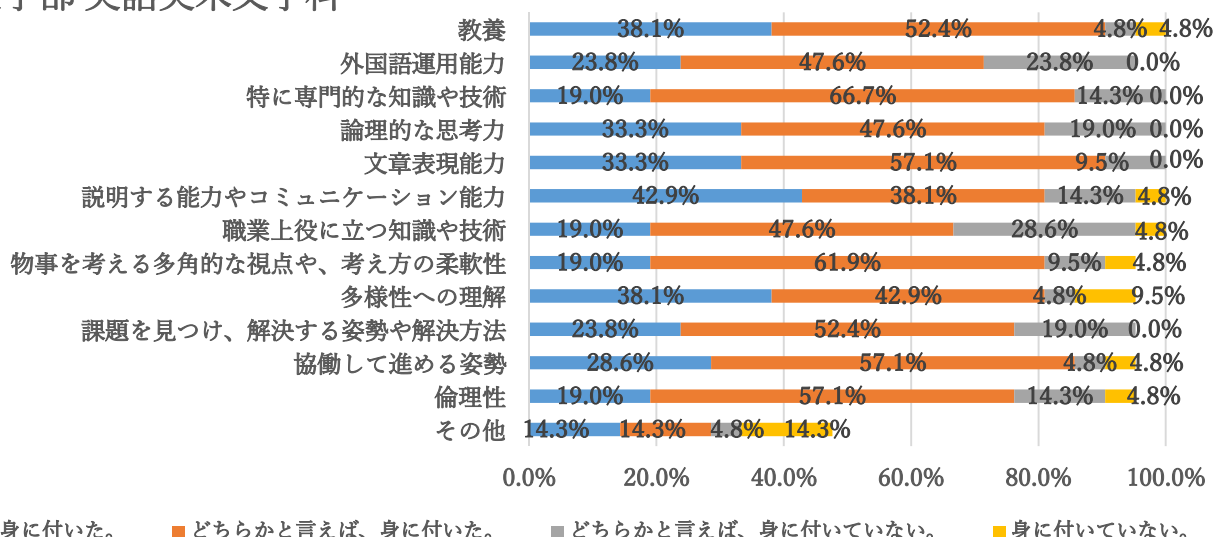
問 07 前問に続けて、学部・学科の専門教育科目についてである。それらの授業を通して、どのような知識・技能・能力が身に付いたか、自己評価してもらう設問である。これも学部・学科固有の選択肢を含んでいるので、学部・学科ごとに示す。

全体的に、どの学部・学科においても、「身に付いた」「どちらかと言えば身に付いた」という肯定的自己評価が7割、8割以上であるのは喜ばしい。

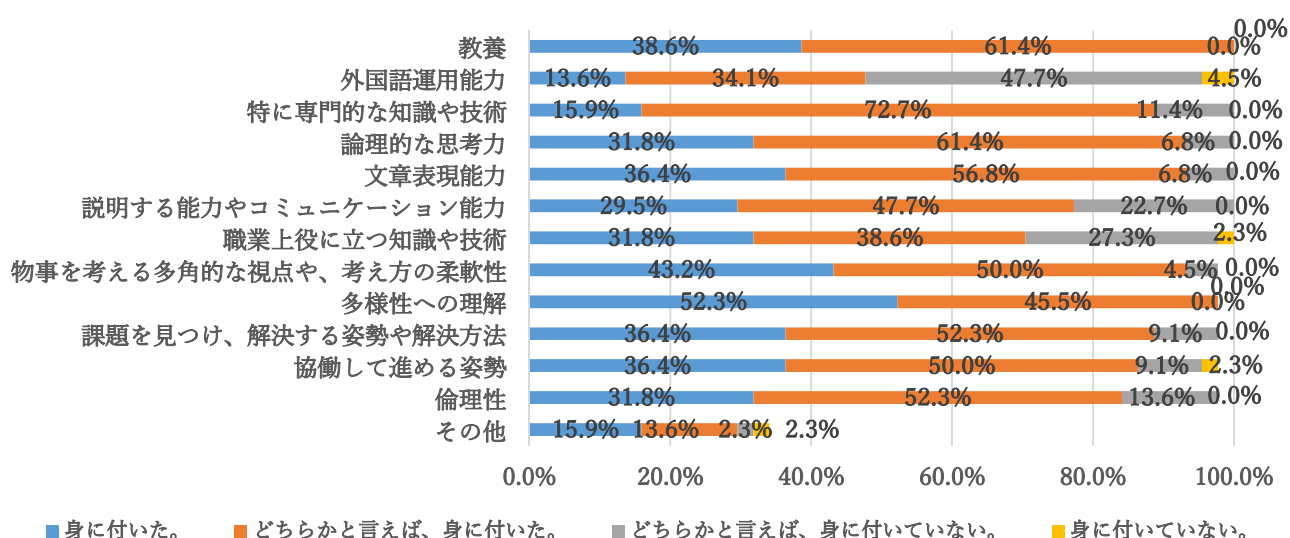
反面、「身に付いていない」「どちらかと言えば身に付いていない」という否定的自己評価も散見する。その中から2割程度以上の項目を挙げてみると、「外国語運用能力」（文学部英文・日文）、「職業上役に立つ知識や技術」（文学部英文・日文）、「説明する能力やコミュニケーション能力」（文学部英文・日文）、「論理的な思考力」（社会福祉学部）、「国際的視野」（看護学部）であった。

なお、「その他」には、「コミュニケーション／社交性／課題を計画的に終わらせること／自由な気持ち／優しいところ」（すべて文学部・日文）が記入されていた。

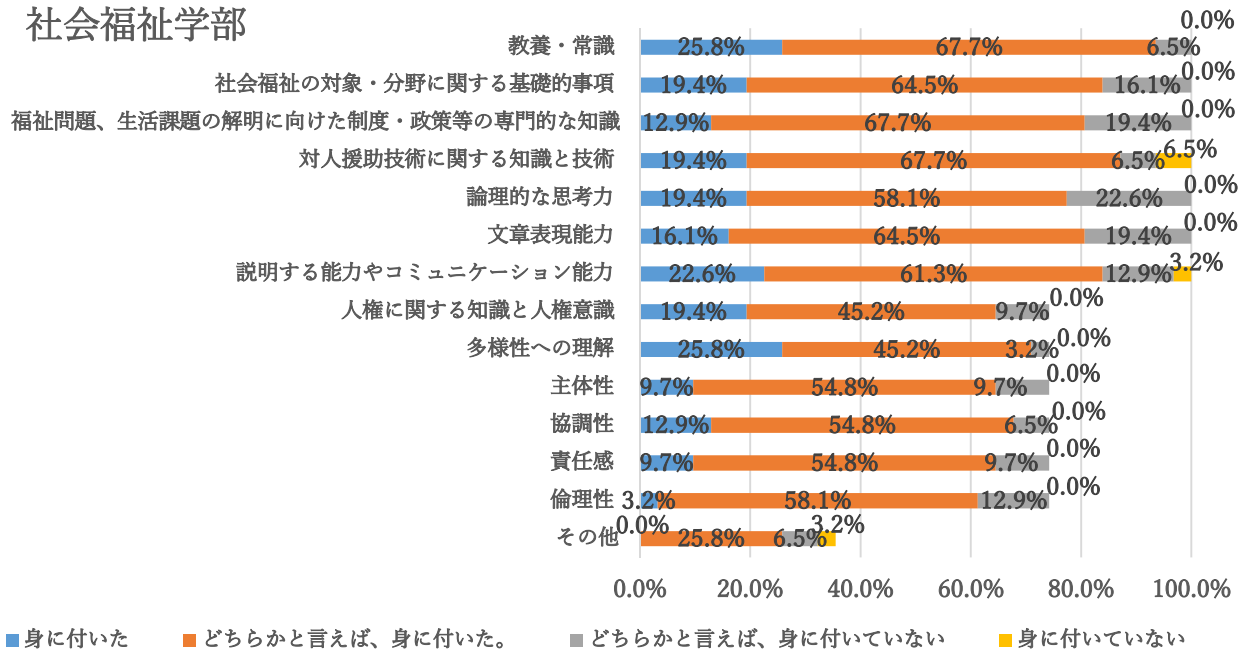
文学部 英語英米文学科



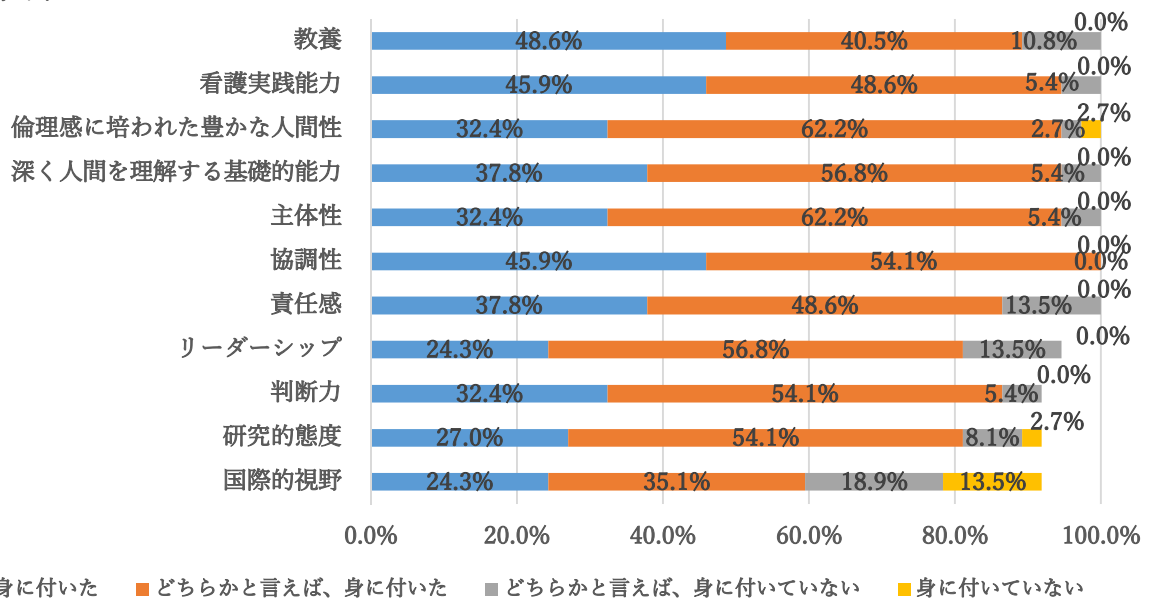
文学部 日本語日本文学科



社会福祉学部



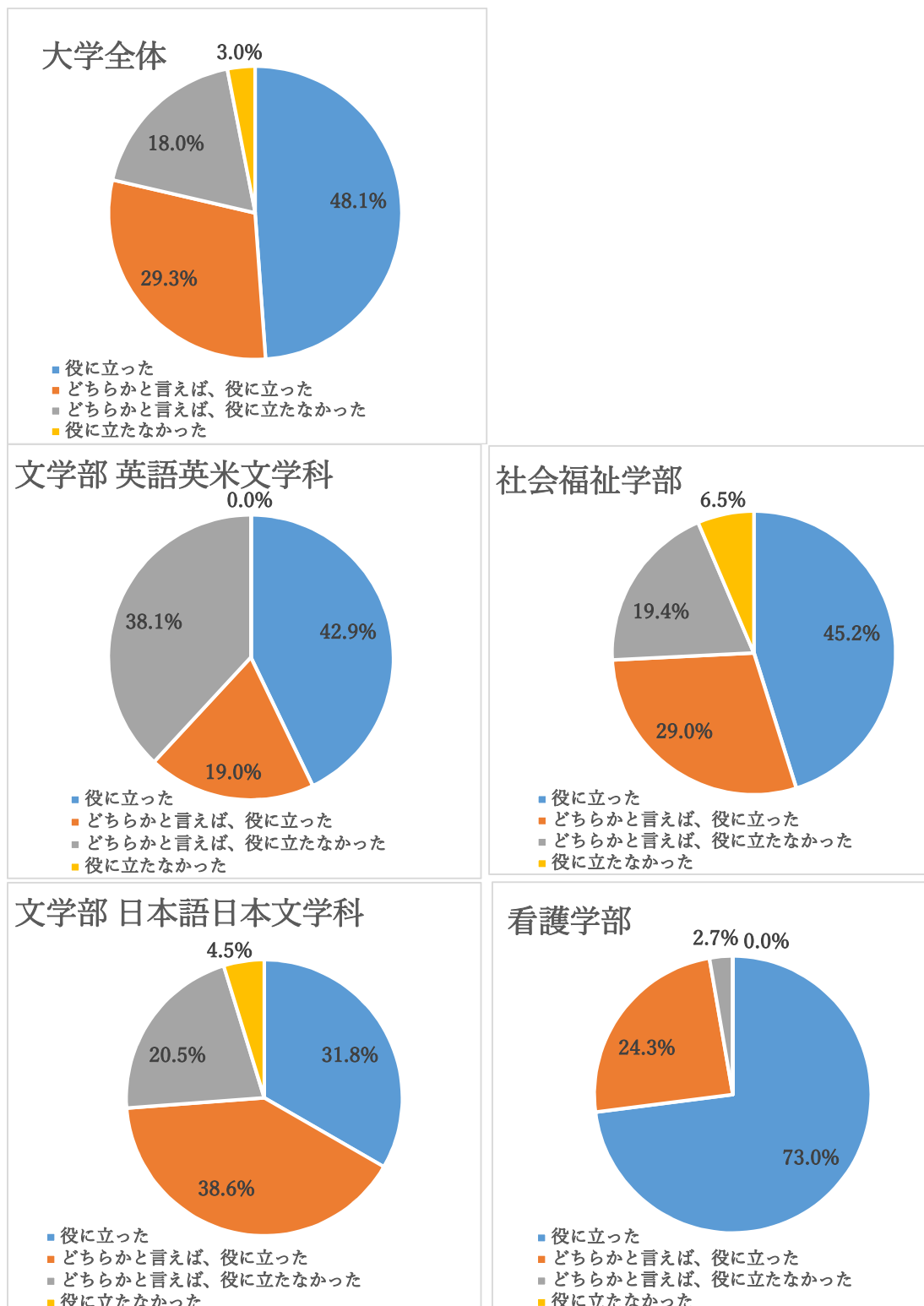
看護学部



問 08 学部での学修が、進路選択に有効だったかどうかの設問である。

「役に立った」と「どちらかと言えば役に立った」と合わせた〈役立った〉系の回答をみると、大学全体の 77.4%は、昨年度の 80.1%に比して若干低下した。

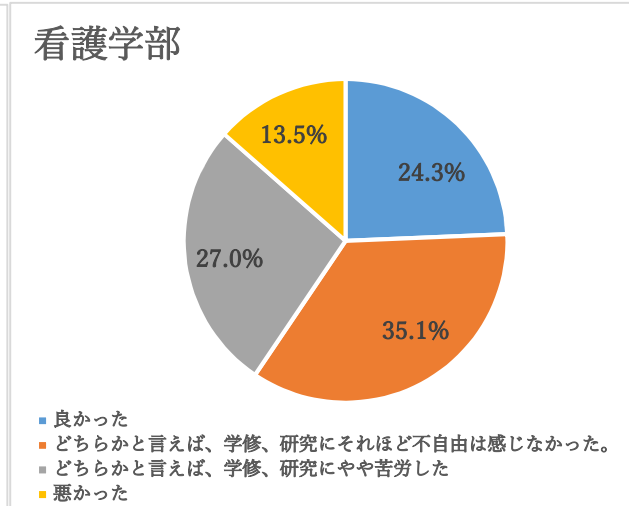
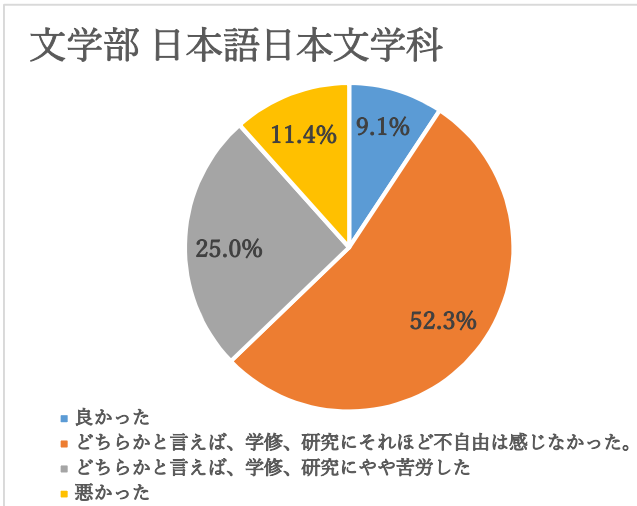
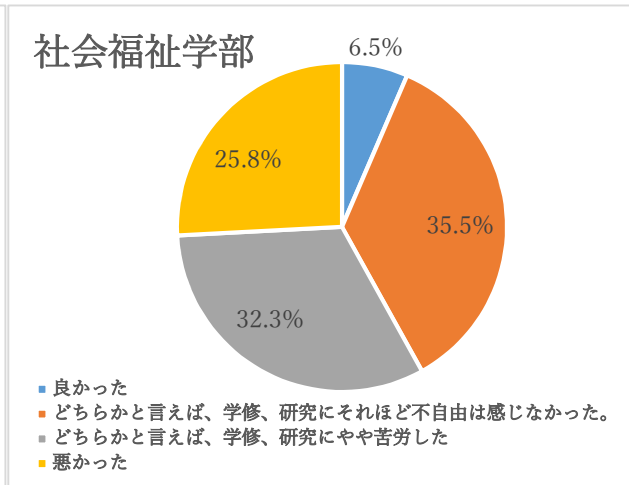
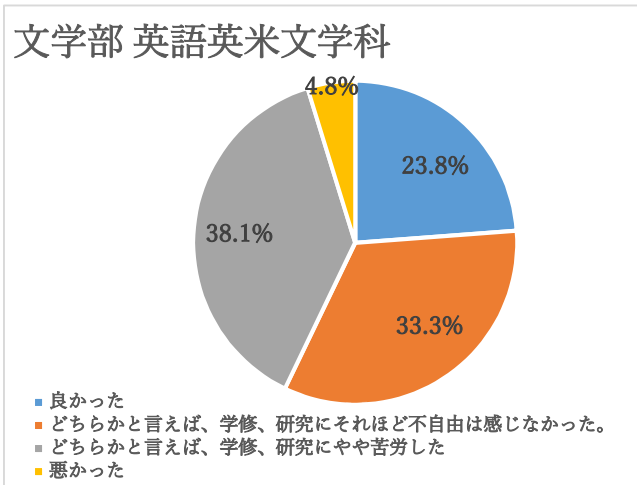
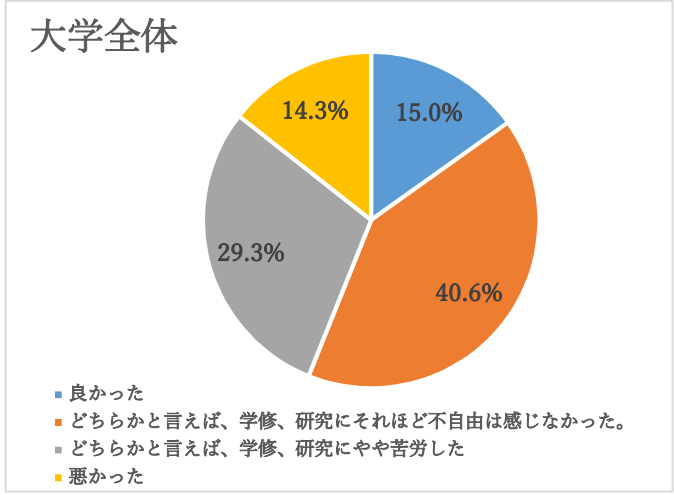
昨年度は、学部教育の特徴を反映しているゆえか、学部によってかなり異なる傾向をみせていたが、今回は、文学部（英文・日文）については、〈役立った〉系が 70.0%（昨年度 71.5%）と微少の低下だったが、社会福祉学部では、74.2%（同 88.6%）と 10 ポイント超の減少となった。ところが看護学部では 97.3%（同 93.4%）と、唯一評価が上昇した。



問 09 学修・研究環境について、施設、設備、備品の充実度を評価する設問である。

「悪かった」と「学修、研究にやや苦勞した」とを合わせた否定的評価の割合からみると、昨年度はかなり厳しい評価（60.4%）であったが、今年度（44.5%）はそれと比較して、かなり持ち直している。

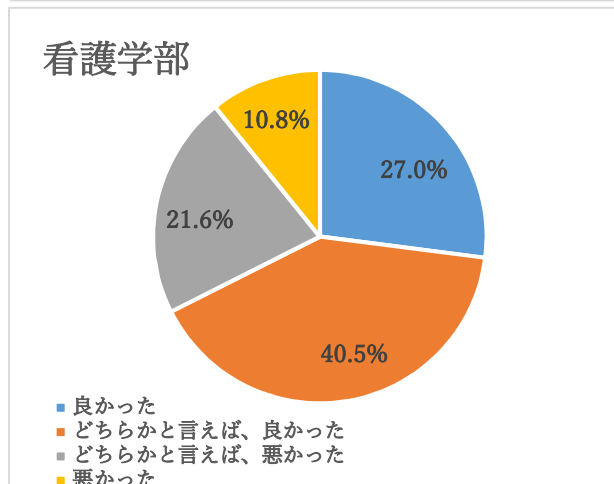
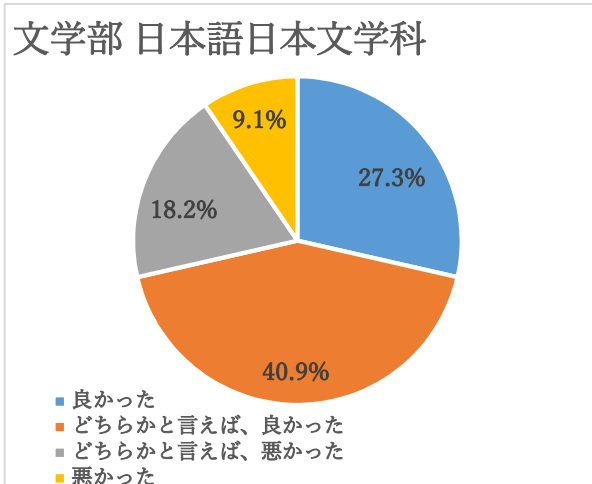
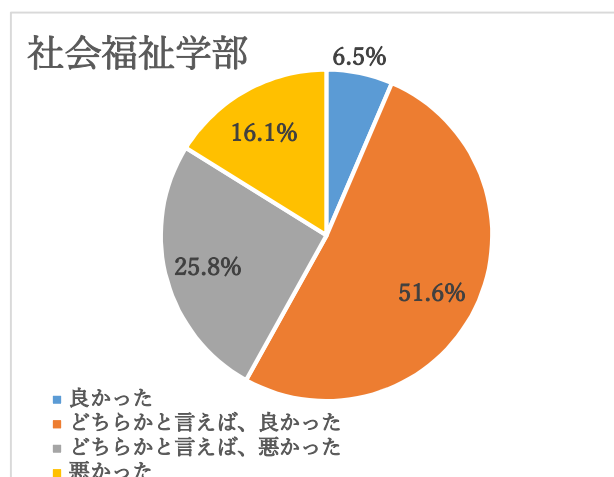
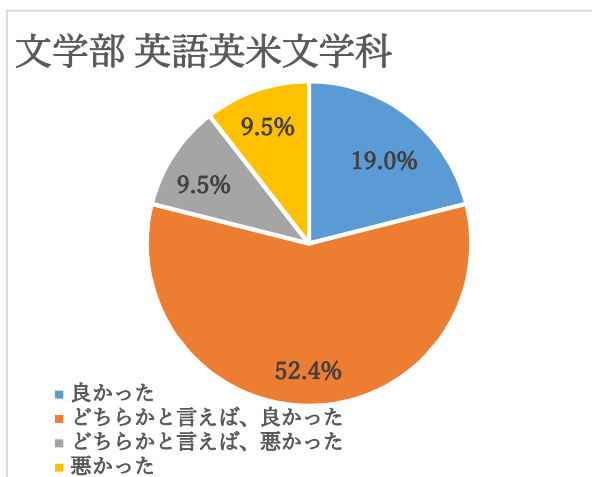
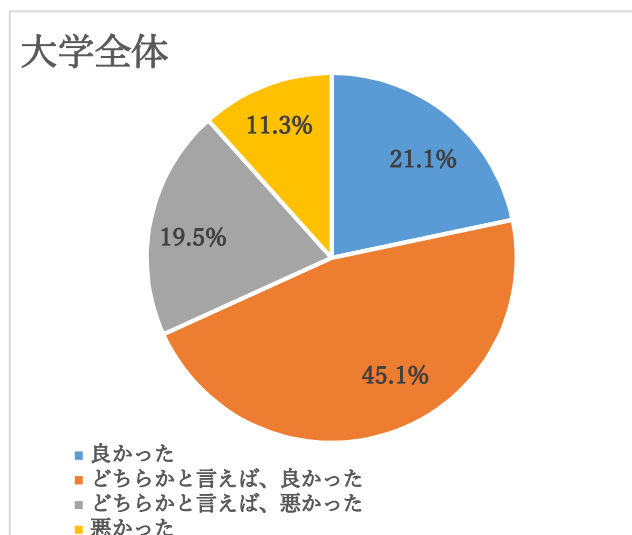
否定的評価について、文学部・英文では42.9%（昨年度73.6%）、日文では36.4%（同54.5%）、看護学部では40.5%（同68.1%）と減少した。しかし社会福祉学部では58.1%（同42.9%）と否定的評価が増加した。



問10 就職活動に対する大学の支援についての評価である。

今年度は昨年度に比して相対的に低かった。「良かった」と「どちらかと言えば良かった」が、大学全体では、昨年度は8割を超えていたが、今年度では7割に届いていない。

〈良かった〉系を学部別に見るとそれぞれ異なった評価であった。文学部平均69.5%（昨年度61.1%）、社会福祉学部58.1%（同82.1%）、看護学部67.5%（同72.3%）であった。文学部はアップしたが、社会福祉学部と看護学部ではいずれもダウンした。



問 11 大学教育、大学生活に対して、充実や改善すべき点を自由に記述してもらおう設問である。(事項、テーマごとに分類して示す。今回は記述が少なかったので、ほぼそのまま掲載することとする。)

【就職支援関係】

- ・就職活動への支援については、定期的に就職関連の講演があったのは良かったのですが、就職活動を始めてから（3月以降）は支援が不十分だった。

【施設・設備関係】

- ・wi-fi ありがとうございます。
- ・図書が古い。研究の本を増やして。
- ・教室の場所が分かりにくい。
- ・日常的に使えるところを増やしたほうが良いと思う。
- ・ご飯を食べられるスペースが限られているので増やしたほうがいい。
- ・設備があまりよろしくないと感じた。
- ・図書館のロッカーにもものを入れなくても出入りできるようにしてほしい。
- ・図書館の自習室をもっと静かな環境にしてほしい。私は4年間を通して図書館で勉強することが多かったですが平日の昼間（空き時間）やテスト前は、学生の声がうるさくて集中できない状態になることが多々ありました。

【エアコン、クーラー】

- ・エアコンをつけてほしい。
- ・冷房が欲しかったです。
- ・後輩の学習環境改善のためにも、エアコン設置場所を増やしてあげてください。
- ・クーラーは学習意欲に関わる。
- ・冷房設備を整えてほしい。死人が出る前に。
- ・もう少し冷暖房が各部屋の小回りがきくようにしてほしい。
- ・看護学部エアコンをつけてほしい。(他8件)

【教員とのコミュニケーション】

- ・教員を増やし学生と密に接する機会を増やしていくこと。

【連絡・通知方法】

- ・連絡事項はメールにしてほしい。

【その他】

- ・充実した大学生活を送ることができました。ありがとうございました。
- ・弘学に入って良かったです。ここを人生の出発点として今後も頑張っていきます。
- ・4年間お世話様でした。
- ・国試の勉強は助け合い、周りに仲間がいたから頑張れた。実習も同様、4学年はよかった。
- ・友達ができてよかった。

(以上)

Ⅲ 資料

(1) 卒業時アンケート調査票

(注) 本調査票は、学部ごとに作成したが、構成上は、全学部共通項目と学部固有の項目となっているので、以下では、それらをまとめて一覧できるようにした。

- ・設問1～5、8～11は、全学部共通項目。
- ・設問6、7は各学部固有の項目を含む。

「卒業時アンケート」のお願い

ご卒業おめでとうございます

このアンケートは、弘前学院大学の学士課程教育及び学生支援の点検・評価を目的として、卒業する皆さんに、学士課程教育の効果・成果や学生支援の状況等についてお尋ねするものです。

回答は無記名です。公表される集計結果から個人が特定されることや、回答者が不利益を被ることはまったくありませんので、安心してご回答ください。

なお、回答し難い項目はそのままでも結構です。

2020(令和2)年3月 弘前学院大学

問01 あなたの所属について伺います。

次の1～4の該当する数字をマークしてください。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 文学部・英語英米文学科 | 2. 文学部・日本語日本文学科 |
| 3. 社会福祉学部・社会福祉学科 | 4. 看護学部・看護学科 |

【全学部共通】

問02 進路について伺います。

【進学】進学された方は、次の1. 2. 3. の該当する数字をマークしてください。

1. 他大学の大学院へ
2. 本学の大学院へ
3. 他大学、専門学校等へ

【就職】就職された方は、次の1～23の該当する数字をマークしてください。

1. 農業・林業
2. 漁業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業
4. 建設業
5. 製造業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業
8. 運輸業、郵便業
9. 卸売業、小売業(店員含む)
10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業
12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業
14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業
16. 医療
17. 福祉
18. 複合サービス事業
19. サービス業(他に分類されないもの)
20. 公務員
21. アルバイト・フリーター
22. 家事手伝い
23. その他

【全学部共通】 以下、当てはまる数字をマークしてください。

問03 弘前学院大学での学業を含む学生生活に対する満足度について伺います。

学業・学生生活について満足していますか。

- 4: 満足している
- 3: おおむね満足している
- 2: どちらかといえば満足していない
- 1: 満足していない

【全学部共通】

問04 満足度についてもう少し具体的に伺います。あなたの勉学や学生生活にとって、良かったと思うものは何ですか(複数回答5つまで)。

1. 授業科目
2. 実習・演習、ゼミナールの活動
3. 少人数教育
4. キャリア教育
5. インターンシップ
6. 資格取得
7. 部活・サークル活動
8. ボランティア活動
9. 海外留学
10. アルバイト
11. その他

【全学部共通】

問05 大学生活での学修について、自分自身としてはどのように評価していますか。

- 4: そう思う
- 3: どちらかと言えばそう思う
- 2: どちらかと言えばそう思わない
- 1: そう思わない

- ① 学生生活全体を通じて、大学の授業によく出席した。 4・3・2・1
- ② 学生生活全体を通じて、何を学ぶのかを明確に理解していた。 4・3・2・1
- ③ 学生生活全体を通じて、課題や試験の準備に真剣に取り組んだ。 4・3・2・1

- ④ 学生生活全体を通じて、授業の内容を十分に理解することができた。 4・3・2・1
 ⑤ 学生生活全体を通じて、授業に対し、意欲的・積極的に取り組んだ。 4・3・2・1

【文学部のみ】

問 06 1 年次～2 年次における基礎教育科目、教養科目や一般教育科目の中で、次に示す分野や科目について、あなたの学生生活において、ためになった、役に立ったと思っていますか。

- 4：そう思う
 3：どちらかと言えばそう思う
 2：どちらかと言えばそう思わない
 1：そう思わない

- | | |
|---------------------------------|---------|
| ①基礎科目（基礎演習） | 4・3・2・1 |
| ②一般教育科目（キリスト教、人間・社会、自然、地域、教養演習） | 4・3・2・1 |
| ③外国語科目 | 4・3・2・1 |
| ④保健体育科目 | 4・3・2・1 |
| ⑤キャリアサポート科目 | 4・3・2・1 |
| ⑥単位互換科目 | 4・3・2・1 |
| ⑦情報処理関係科目 | 4・3・2・1 |

【社会福祉学部のみ】

問 06 1 年次～2 年次における基礎教育科目の中で、次に示す分野や科目は、あなたの学生生活において、ためになった、役に立ったと思いますか。

- 4：そう思う
 3：どちらかと言えばそう思う
 2：どちらかと言えばそう思わない
 1：そう思わない

- | | |
|-------------------|---------|
| ①基礎教育科目（基礎演習） | 4・3・2・1 |
| ②基礎教育科目（社会科学研究方法） | 4・3・2・1 |

【看護学部のみ】

問 06 1 年次～2 年次における基礎教育科目、教養科目や一般教育科目の中で、次に示す分野や科目について、あなたの学生生活において、ためになった、役に立ったと思っていますか。

- 4：そう思う
 3：どちらかと言えばそう思う

【全学部共通】

問 08 学部で学んだことが、あなたの進路の選択に役に立ったと思いますか。

4. 役に立った
3. どちらかと言えば、役に立った
2. どちらかと言えば、役に立たなかった
1. 役に立たなかった

【全学部共通】

問 09 大学の学修環境について伺います。施設、設備、備品の充実度はいかがでしたか。

4. 良かった
3. どちらかと言えば、学修、研究にそれほど不自由は感じなかった。
2. どちらかと言えば、学修、研究にやや苦勞した
1. 悪かった

【全学部共通】

問 10 就職活動への大学の支援についてはいかがでしたか。

4. 良かった
3. どちらかと言えば、良かった
2. どちらかと言えば、悪かった
1. 悪かった

【全学部共通】

問 11 大学生生活を振り返って、弘前学院大学の教育について、今後、充実や改善すべき点があれば、それはどのようなところでしょうか、自由に書いてください。

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

皆様のご健康と今後のご活躍を祈念します。

あとがき

このアンケート調査は、本学が全学的に実施したのは、昨年度に引き続き今回が2回目であるが、この3月の時期には、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、体調の悪い場合には卒業式等その他の集まりには、慎重を期して出校を控えるよう、全学的に指導していたため、出席率も昨年に比して低かったが、それでも80%を超える回収率であった。

卒業間際の慌ただしさに加えて、こうした緊迫した時期に、アンケートに快く協力していただいた学生の皆さんに御礼申し上げたい。

アンケートの設問内容は、全学部共通の設問と各学部固有の設問とも、いずれも経年比較のために前年度と同一とした。

昨年度と比較して、大学生生活の満足度は20ポイントアップして8割を超えたこと、授業等の満足度も8～9割を占め、それに連動するかのよう、授業への意欲や取組度も高かったことが喜ばしいことであった。

反面、就職活動に対する大学の支援の状況は、昨年度より評価を下げており、また学修・研究環境については、昨年度より持ち直したとは言え、プラス評価は5割前後を低迷している状況である。

このように、よい評価を受けた事項とともに、厳しい意見が昨年と同様に寄せられた事項がある。これらの改善については未着手なので、さらに踏み込んだ調査が必要になるが、速やかに着手しなければならない。

なお、本報告書の作成にあたって、昨年度に続いてデータの整理、図表化は本学の電子機器管理センターにて処理した。それらのデータは、一昨年度設置された弘前学院大学IR室において管理・運用される。
(大学FD委員会委員長 藁科勝之)

2019（令和1）年度 弘前学院大学 「卒業時アンケート調査」実施結果報告書
編集・発行 弘前学院大学：大学FD委員会 弘前学院大学 〒036-8577 弘前市大字稔町13-1 電話 0172-34-5211（代） FAX 0172-32-8768
2020（令和2）年3月31日 発行